

# 重要イカ類の資源評価と漁況予測に関する研究

## (資源評価調査)

寺戸稔貴

### 1. 目的

本県のいか釣漁業や底びき網漁業の重要な漁獲対象であるイカ類の資源状況について把握し、科学的評価を実施する。また、イカ類資源の適切な保全と合理的かつ持続的利用を図るための提言を行う。

### 2. 方法

#### (1) 漁獲統計調査

イカ類3種(スルメイカ、ケンサキイカ、ヤリイカ)の漁獲統計資料を収集し、漁獲動向を把握した。また、長崎県、佐賀県、福岡県、山口県および鳥取県の5県と共同で各地におけるケンサキイカの漁況を取りまとめた。

#### (2) 生物情報収集調査

県西部の浜田市場において沖合底びき網漁業、いか釣漁業により漁獲されたケンサキイカを購入した。また、漁業種類別にケンサキイカの精密測定を各6回行い(添付資料「ケンサキイカ生物情報収集調査結果」(以下同じ)表1)、調査当日の外套背長組成を推定した。

#### (3) 稚仔分布調査

スルメイカ幼生の分布状況を把握するため試験船「島根丸」により改良型ノルパックネット(Nyral 52GG; 0.335 mm)を用いて稚仔分布調査を行った。調査は2023(令和5)年9月26日~10月4日、10月24~25日の2航海において計14点で実施された。

#### (4) 漁況予測

(国研)水産研究・教育機構 水産資源研究所(以下、水産機構資源研)および関係道府県の水産研究機関が共同でスルメイカ、本県が単独で秋季のいか釣漁業におけるケンサキイカの漁況予測を行った。

### 3. 結果

#### (1) 漁獲統計調査

イカ類3種の漁獲動向は本誌の別章「2023(令和5)年の漁況」、ケンサキイカの漁況は「トビウオ通信漁況速報 ケンサキイカ情報」令和5年度第1号~第8号のとおりである。

#### (2) 生物情報収集調査

結果は添付資料表2のとおりである。

#### (3) 稚仔分布調査

水産機構資源研が結果を取りまとめ、2024年度スルメイカ秋季発生系群の資源評価票にて報告予定である。

#### (4) 漁況予測

スルメイカの結果は「トビウオ通信」令和5年第3号および第6号、ケンサキイカの結果は「トビウオ通信」令和5年第8号のとおりである。

### 4. 成果

調査結果はスルメイカ秋季発生系群、ケンサキイカ日本海・東シナ海系群およびヤリイカ日本海系群の資源評価に活用された。スルメイカ秋季発生系群においては研究結果から推定されたABC(生物学的許容漁獲量)を基に、TAC(漁獲可能量)が設定された。また、令和5年度出雲地区延縄一本釣漁業連合会技術交流研修会にてケンサキイカ、島根県水産技術センター漁海況・研究成果発表会にてケンサキイカおよびスルメイカの資源動向を報告した。